

新入生の意欲を掻き立てる
入学前教育プログラムの実践報告

田上 正範

Report on an Educational Program to Motivate Students
Before Entering University

Masanori Tagami

新入生の意欲を掻き立てる 入学前教育プログラムの実践報告

田上 正範

Report on an Educational Program to Motivate Students Before Entering University

Masanori Tagami

【キーワード】 入学前教育、モチベーション、学生スタッフ、学生主導、学び合い、入学予定者、
帰属意識、キャリア意識

1. 背景と目的

近年、早期に合格が決定した入学予定者に対し、入学前に教育を行う大学が増えている。文部科学省高等教育局は「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について（通知）」¹⁾の中で、『入学前教育については、既に平成23年度実施要項から「各大学は、入学手続をとった者に対しては、必要に応じ、これらの者の出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学習のための準備をあらかじめ講ずるよう努める。』旨を盛り込んでいる。大学で入学前教育を実施する割合は「AO入試」で69%、「推薦入試」で86%となっており、何らかの形で高等学校と連携する割合は「AO入試」で99%、「推薦入試」で33%となっている。しかし、早期の合格後の学習意欲の維持は、高等学校・大学双方において大きな課題となっており、高等学校における適切な指導と併せ、入学前教育の実質化を図る必要がある。』として、『早期に合格が決定した後の学習意欲を継続する観点から、①入学前教育について、特に12月以前に入学手続をとった者に対しては、「積極的に講ずる」ことを実施要項に盛り込む。各高等学校においても、大学と連携し学習意欲を維持するための必要な指導を行うよう努める。②学校推薦型選抜の場合、高等学校による推薦段階だけでなく、合格決定後も、推薦を行った高等学校の指導の下に、例えば、入学予定者に対して大学入学までの学習計画を立てさせ、また、その取組状況等を高等学校を通じ大学に報告させるなど、高大連携した取組を行うことが望ましい。』としている。また、民間企業による調査として、マイナビ²⁾が、各大学で取り組む入学前教育の傾向をホームページで公開し

1) 文部科学省高等教育局「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について（通知）」平成29年7月13日発行、http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/24/1397731_003.pdf

2) マイナビ進学 高校生のための進学ガイド 大学入学前教育
<https://shingaku.mynavi.jp/cnt/etc/column/step7/remedial/> (2018/8/7)

ている。入学前教育の主な目的には、「学びへのモチベーションの維持」「事前に大学での学びを知る」「大学での学びに対する不安の解消」があり、具体的な内容として、「高校の学習内容をしっかり固めるプログラム」「入学後の専門分野の学びを先取り」「将来を見据えたキャリアサポートプログラム」「e-ラーニングで苦手分野を徹底復習」など、多彩なプログラムがあるとしている。

本稿は、追手門学院大学で実施する入学前教育プログラムの実践事例について報告するものである。例年、入学者全体の約5割を入学予定者として、入学前教育を実施している。当日の参加者（受講者）の約9割からプログラム直後のアンケート調査で肯定的な回答を得ている。入学予定者の大学に対する不安を解消し、意欲を掻き立てるために、100名を超える在學生（学生スタッフ）が3か月にわたる研修を経て、当日を迎える。主体的に活動する在學生と入学予定者との出会い、学び合いを促進する実践事例についてまとめたものである。

2. 追手門学院大学の入学前教育プログラム

2-1. 概要と変遷

追手門学院大学では、毎年3月（または2月）に、指定校推薦入試や特別入試（前期日程）等の入学予定者を対象として、入学前教育プログラムを実施している。表1に、入学前教育の対象者数と参加者数、および学生スタッフ数等を示す。2018年度入学の対象者数は929名であり、入学者数全体の1857名の50%を占める。また、当日の参加者数は769名であり、参加率は83%となる。本プログラムの運営を担う学生スタッフ数は119名である。当日参加した入学予定者（参加者数）を、学生スタッフ1人当りで換算すると6.5人となる。プログラムは対象者をおおよそ半数に分けて、2日間で実施されるため、実際には、学生スタッフ1人当り13人（6.5人の2倍）となる。また、本プログラムは、2012年度より始められた（当時は外部委託で実施）が、2015年度入学予定者から、学内の担当教職員で運営するよう、内製化に取り組み、2016年度入学予定者から、学生主導型プログラムへ移行し、担当教職員は学生スタッフを支援する運用となって、現在に至る。（2019年度も継続予定）

本プログラムの目的は、本学の教育理念である「独立自強」と「社会有為」を体現する人材となる基礎を築くことであり、自己との対話や他者とのコミュニケーションを通して、大学入学時から卒業までのイメージに対する理解を深めることである。また、到達目標は、入学予定者と学生スタッフそれぞれに設定している。入学予定者に対しては、「①仲間作りに求められる、積極的な自己開示をすることができる。②自分にとって4年間の大学生活のもつ意味や価値を他者に説明することができる。③追手門学院大学での4年間の大学生活プランを計画することができる。」であり、学生スタッフに対しては、「①プロジェクトメンバーに対して批評することができる。②学習者に対して誠実に向きあうことができる。③プロジェクトの進行に合わせて自身に求められる貢献をすることができる。」とした。2018年度入学予定者向けプログラムの当日スケジュールを表2に示す。

表1. 入学前教育の対象者数と参加者数等の変遷

	2014年度 入学	2015年度 入学	2016年度 入学	2017年度 入学	2018年度 入学
入学者数 ※5月1日時点の1年生の総数	1600名	1725名	1594名	1873名	1857名
対象者数 (入学者数に対する割合)	534名 (33%)	688名 (40%)	723名 (45%)	911名 (49%)	929名 (50%)
参加者数 (対象者数に対する参加者数の割合)	435名 (81%)	607名 (88%)	616名 (85%)	730名 (80%)	769名 (83%)
学生スタッフ数 (学生スタッフ1人当りの参加者数)	0名 (-)	29名 (20.9人)	60名 (10.3人)	103名 (7.1人)	119名 (6.5人)
特記事項	外部委託 2012年～	内製化を 試行	学生主導型プログラムへ移行		

表2 2018年度プログラムの当日スケジュール (グループによって一部異なる)

時間		内容	担当者
9:45 10:00	15分	オリエンテーション	全体司会：学生スタッフ ウェルカムスピーチ：学部長・副学部長・各学部教員 講師：担当教員
10:00 10:20	20分	アイスブレイク	講師：学生スタッフ
10:20 10:30	10分	大学と高校の学びの違い	講師：担当教員
10:30 11:50	80分	自己理解・他者理解 ワークショップ①	講師：担当教員・担当職員 ファシリテーター：学生スタッフ
11:50 12:40	50分	ランチセッション	司会：学生スタッフ ファシリテーター：学生スタッフ
12:40 13:10	30分	大学生生活プラン作成 ワークショップ②	講師：学生スタッフ ファシリテーター：学生スタッフ
13:10 14:00	50分	カタリバ～教えて先輩！～	講師：学生スタッフ
14:00 14:10	10分	休憩	
14:10 14:40	30分	大学生生活プラン作成 ワークショップ③	講師：学生スタッフ ファシリテーター：学生スタッフ
14:40 15:00	20分	大学生生活プラン 発表セッション	講師：学生スタッフ ファシリテーター：学生スタッフ
15:00 15:30	30分	全体のまとめ ・アクションプラン発表 ・ふりかえり ・学生スタッフから一言 ・アンケート記入 ・資料配布	講師：担当教員 ファシリテーター：学生スタッフ

2-2. 実施体制

本プログラムは、教務課が所管し、教育開発センターがプログラムの開発・実施を担当している。教育開発センターは、プログラムの講師を担うとともに、学生スタッフの育成を行う。2018年度入学予定者向けプログラムの運営体制を図1に示す。教務課の職員、および、教育開発センターの担当教職員、学生スタッフの教職学協働の体制であることがわかる。また、学生主導型プログラムへの移行に伴い、チーム制を導入している。4年生を中心としたコアスタッフを置き、その下位に5つのチームを編成し、それぞれにチームリーダーとサブリーダーを任命する。チームメンバーの育成及び管理（マネジメント）を、リーダーとサブリーダーに一任し、適宜コアスタッフに報告・連絡・相談（報連相）する。コアスタッフは、教職員と連携してプログラム全体を遂行し、学生スタッフへの研修を企画、実施しながら、チームメンバーの育成を進める体制とした。なお、学生スタッフが成長した要因については、岸岡ら（2016³⁾）が、学生スタッフを対象としたアンケートの結果から、チームによるピア・ラーニング体制や教職学やチームメンバーからのフィードバックが有効に機能したことをまとめている。

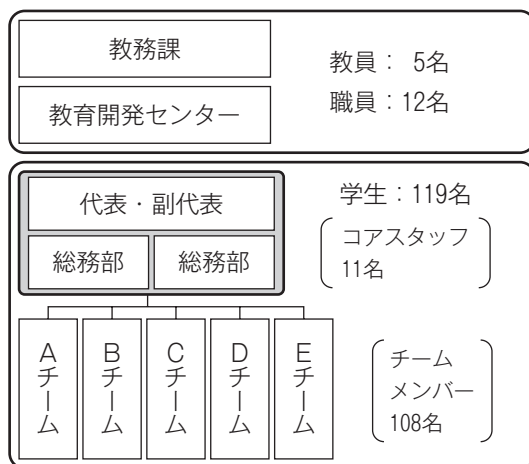


図1 2018年度入学予定者向けプログラムの運営体制

3) 岸岡奈津子ら「学生の能力開発を促進する要因－教職学による入学前教育プログラムの事例から－」大学教育学会第38回大会,立命館大学, pp.214-215. (2016)

3. 考 察

入学前教育プログラムの実施直後に行った受講者アンケートの結果を別紙（末尾）に示す。プログラム全体の満足度（質問Ⅵ「とても満足した」「まあ満足した」）、各プログラムの役立ち度（質問Ⅲ「とても役に立った」「まあ役に立った」）、達成の実感（質問Ⅳ「とても達成できた」「まあ達成できた」）の全項目において、9割を超える肯定的な回答が確認することができる。つまり、プログラム実施直後については、一定の成果があったと言える。

ここで、入学後の影響について、考察する。プログラムの効果を検証する上で、成績評価は欠くことはできない。しかし、2018年度入学者の成績は未修了のため、2017年度入学者の成績を調査した（N=1847）。調査の分類として、入学前教育の非対象者※1（①N=965）と対象者※2（N=882）があり、その対象者を、当日の出席者（②N=718）と欠席者（③N=164）の3つに分類して、2017年度入学者の成績の傾向を以下のようにまとめた。

表5 2017年度入学者の成績傾向

	全 体	非対象者	対象者（出席）	対象者（欠席）
対象者	1847	965	718	164
GPA平均	2.29	2.36	2.26	2.03
成績不振者の割合 （成績不振者数）	5.1% (94)	5.4% (52)	4.0% (29)	7.9% (13)

対象者の出席者と欠席者を比べると、欠席者のGPA平均が低く（t検： $p=0.0012$, $\alpha=0.05$ ）、成績不振者の割合も高い。入学前教育は、1日のプログラムであり、生活や学習の習慣がプログラムによって変容したとは考えにくい。しかしながら、欠席の割合が高い者が成績不振者となりやすい傾向は否定できない。

次に、非対象者と対象者（出席）を比べると、対象者のGPA平均が低い（t検： $p=0.0140$, $\alpha=0.05$ ）。非対象者の主な入試区分は一般入試であり、高校3年生の3月まで受験勉強を続け、入学後もそのまま学習習慣を継続するものが多いと類推される。そのため、入学前教育の対象者と比べて、GPA平均が高いと考えられる。一方、成績不振者の割合は、対象者（出席）の方がやや低く、よい傾向を示す。ここで、成績不振者の割合は両者で変わらないと仮定した場合、GPA平均が低い分、成績に不安を抱く割合は高くなるが、成績不振に陥る前に何らかの方法で回避したと考えられる。つまり、成績に困ったり、悩んだりした際に、誰かに相談し、問題を解決した可能性を挙げることができる。今後、入学後の人間関係について、追跡調査が必要である。

謝辞：2018年度受講者アンケート及び2017年度入学者の成績調査にて協力を頂いた教務課の藤本祥之氏、馬場洸志氏に感謝の意を表します。

[別紙]入学前教育プログラムの実施直後の受講者アンケート集計結果

(対象：2018年度入学予定者)

対象者：929名、出席者769名（出席率82.8%）、実施日：2018年3月6日・7日

参考値：前年度実績 730人/911人、出席率：80.1%

【質問Ⅰ】あなたの性別をお答えください。

性別	男子	女子	無回答	全体
人数 (割合)	535名 (69.6%)	205名 (26.7%)	29名 (3.8%)	769名 (100.0%)

【質問Ⅱ】入学する学部をお答えください。

学部	経済	経営	地域創造	社会	心理	国際教養	無回答
人数 (割合)	135名 (17.6%)	211名 (27.4%)	78名 (10.1%)	135名 (17.6%)	71名 (9.2%)	111名 (14.4%)	28名 (3.6%)

【質問Ⅲ】本プログラムに参加する中で、下記のプログラム内容や教育方法はどの程度役に立ちましたか。

項目	とても役に立った	まあ役に立った	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	無回答
①アイスブレイク (自己紹介)	70.2%	28.0%	1.2%	0.3%	0.4%
②自己理解・他者理解	74.8%	23.9%	0.9%	0.1%	0.3%
③カタリバ〜教えて先輩!	83.9%	14.7%	0.7%	0.3%	0.5%
④大学生活プラン作成と発表	72.0%	26.3%	1.2%	0.1%	0.4%
⑤少人数によるグループワーク	75.6%	23.3%	0.8%	0.1%	0.3%
⑥先輩学生のサポートや発表	82.4%	17.0%	0.0%	0.3%	0.3%

【質問Ⅳ】本プログラムに参加して、下記の項目をどの程度達成することができましたか。

項目	とても達成できた	まあ達成できた	あまり達成できなかった	全く達成できなかった	無回答
①自分についてさらに知ることができた	49.5%	48.4%	1.7%	0.1%	0.3%
②相手の話しや意見を丁寧に聴くことができた	65.8%	33.2%	0.8%	0.0%	0.3%
③自分の考えをうまく相手に伝えることができた	41.6%	50.3%	7.5%	0.3%	0.3%

④ チームの仲間と協力しながら学ぶことができた	62.2%	34.7%	2.7%	0.0%	0.4%
⑤ 新しい友人をつくることができた	55.8%	35.1%	7.0%	1.8%	0.3%
⑥ 先輩学生と話しをすることができた	65.7%	31.1%	2.7%	0.3%	0.3%
⑦ 高校と大学の学びの違いについて知ることができた	71.4%	27.8%	0.5%	0.0%	0.3%
⑧ 大学入学から卒業までをイメージすることができた	44.3%	47.3%	7.7%	0.4%	0.3%
⑨ 将来について考え大学 4 年間の計画を立てることができた	45.8%	45.9%	7.5%	0.5%	0.3%
⑩ 大学で学ぶための意欲が高まった	64.2%	33.2%	2.3%	0.0%	0.3%
⑪ 大学生活についての不安が取り除かれた	41.2%	49.4%	8.7%	0.3%	0.4%
⑫ 追手門学院大学の一員であるという実感をもつことができた	48.8%	45.0%	5.9%	0.1%	0.3%

【質問Ⅴ】本プログラムに参加して、前の項目（質問Ⅳ）以外にも達成できたことや身についた能力がありましたら自由に記述ください。

（最も多かったコメントを要約）

- ・ 自己理解
- ・（とくに初対面時での）コミュニケーション能力
- ・ 自分の意見を主張すること
- ・ 大学での目標（将来像）を明確にできたこと
- ・ 計画を立てることの大切さ

【質問Ⅵ】全体として本プログラムに満足しましたか。以下の項目で今の気持ちに最も当てはまる数字にひとつ丸をつけてください。

とても満足した	まあ満足した	あまり満足していない	全く満足していない	無回答
67.2%	30.2%	0.3%	0.3%	2.1%

【質問Ⅶ】前の質問（質問Ⅵ）で「1. とても満足した」「2. まあ満足した」と選択した方は満足した理由を、「3. あまり満足していない」「4. 全く満足していない」を選択した方は満足していない理由を記述ください。

《1・2の理由》（最も多かったコメントを要約）

- ・ 大学の雰囲気（イメージ）を知れたから
- ・ 先輩や新生生の話を聞いたからから

- ・先輩の対応が丁寧だった、先輩が親しみやすかったから
- ・入学前に友達ができたから
- ・(大学生活への) 不安が減少し、緊張が緩和されたから
- ・大学生活が楽しみになったから
- ・4年間の計画を立てることができたから
- ・自己理解や他者理解ができたから
- ・プログラム自体が楽しかったから
- ・単位やGPAなど履修や成績のことについて知れたから

《3・4の理由》

(3・4に関するコメント数は極めて少なかったが、以下がそのコメントである)

- ・長かった

【質問Ⅷ】来年度の入学前教育に先輩学生サポーターとして参加したいですか。

以下の項目で今の気持ちに最も当てはまる数字にひとつ丸をつけてください。

是非参加したい	日程があれば参加したい	参加したくない	わからない	無回答
14.7%	46.7%	4.6%	29.6%	4.4%

【質問Ⅸ】そのほか「本プログラムに対する意見」や、「追手門学院大学で学ぶ上で不安や心配なこと」「大学で学びたいこと、身につけたいこと」など何でも構いませんので今の気持ちを自由に記述してください。

「学びたい・身につけたい・やってみたいこと」

- ・留学 ・資格取得
- ・英語力 ・コミュニケーション能力
- ・在籍学部の専門知識 ・部活やサークル

「不安なこと」

- ・友人関係 (友達が作れるかどうか)
- ・単位がとれるか、進級できるかどうか
- ・履修について
- ・タイムマネジメント

「要望」

- ・部活やサークル、留学についてもっと知りたい
- ・拘束時間が長い
- ・教室の空気換気

以上

Abstract

This paper reports of educational program to motivate the students before enrolling in Otemon Gakuin University. Every year, about 50% of all enrolled students (pre-students) are scheduled to take this program, and about 90% of them who completed this program answered positively in survey. More than 100 student staffs who trained for 3 months support pre-students in order to relive anxiety about starting university life and motivate them. This is a summary of practical case to promote active learning among student staffs and pre-students before enrolling.

